

<みずほ>の収益力と健全性

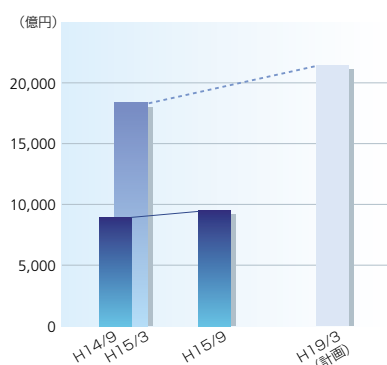
みずほフィナンシャルグループは、健全な財務基盤のもと、収益力の強化にグループ一丸となって取り組んでいます。

●みずほ銀行、みずほコーポレート銀行、みずほ信託銀行の業務純益が堅調に推移したこと、与信関係費用の大幅な減少等により、業績予想を上回る中間純利益を達成しました。

●当グループは、顧客セグメント別・機能別事業戦略の徹底による業務粗利益の向上と、統合合理化加速のためのリストラ強化による経費削減で、収益力の強化に取り組んでいます。

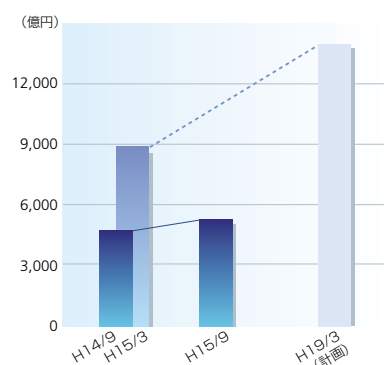
業務粗利益

(3行+再生専門子会社合算)



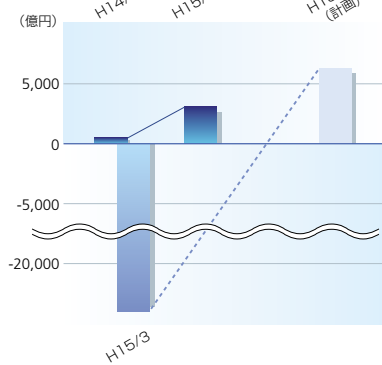
業務純益

(3行+再生専門子会社合算)



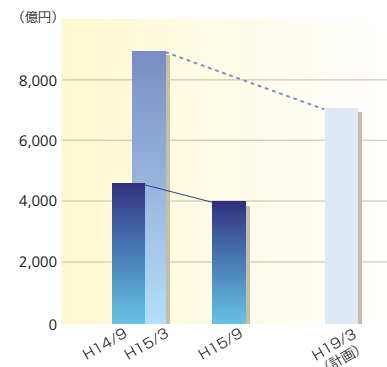
当期純利益

(3行+再生専門子会社合算)



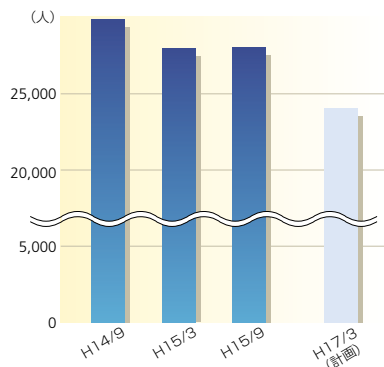
経費

(2行+再生専門子会社合算)

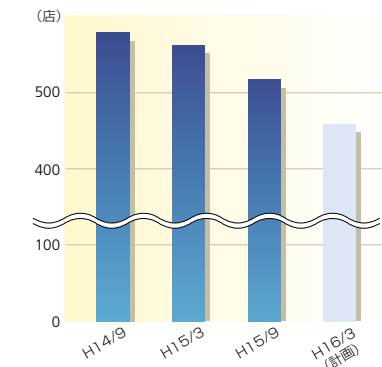


リストラの強化

従業員数(持株会社+2行+再生専門子会社合算)



国内本支店数(2行合算)



○合算の状況については、以下の通りとなっています。

2行合算=みずほ銀行+みずほコーポレート銀行単体合算。

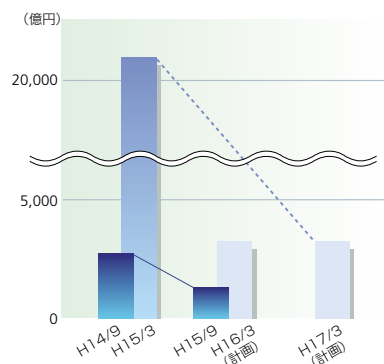
2行+再生専門子会社合算=2行+再生専門子会社3社単体合算。

3行+再生専門子会社合算=2行+みずほ信託銀行+再生専門子会社4社単体合算。

持株会社+2行+再生専門子会社合算=みずほフィナンシャルグループ+みずほホールディングス+2行+再生専門子会社3社単体合算。

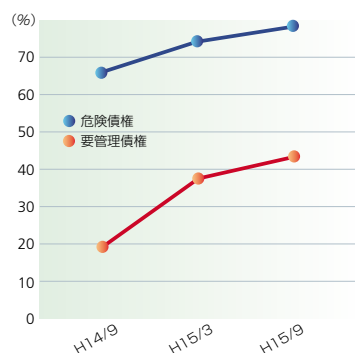
○計画値は、いずれも経営健全化計画ベースです。

与信関係費用
(3行+再生専門子会社合算)



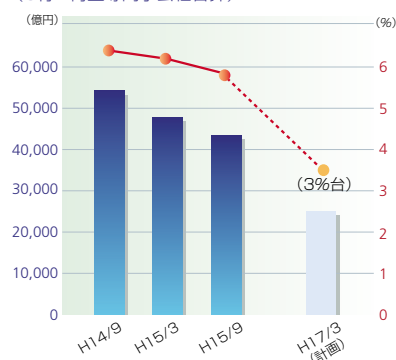
●平成14年度に実施した最終処理の加速と将来の資産劣化リスクへの対応の結果、平成15年度中間期の与信関係費用は大幅に減少しました。当グループは、大手金融グループで最高水準の引当率を確保しています。

不良債権に対する引当率(対信用部分)
(3行+再生専門子会社合算)

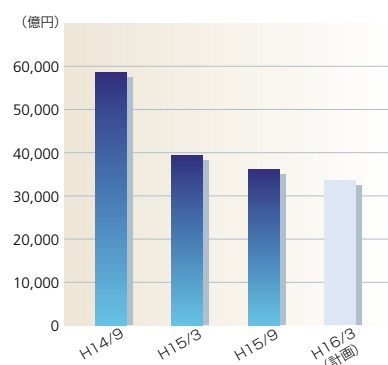


●オフバランスの強化等により、不良債権残高は順調に減少しています。当グループは、企業再生に向けた取組強化と最終処理のスピードアップを通して、不良債権を平成16年度末までに、平成14年9月末対比半減させます。

不良債権残高・比率
(金融再生法開示債権の要管理債権以下)
(3行+再生専門子会社合算)

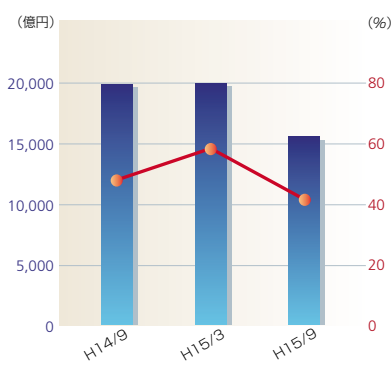


政策保有株式残高
(3行+再生専門子会社合算)



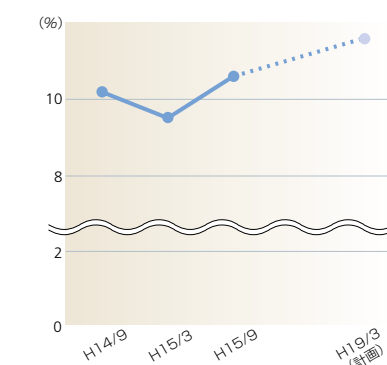
●株価変動リスクによる財務への影響を極小化するため、引き続き株式残高の圧縮に努めています。

繰延税金資産残高/Tier1比率(2行合算)



●中間期に課税所得を計上したこと、将来課税所得をさらに保守的に見積ったこと等から、繰延税金資産は減少しました。

みずほフィナンシャルグループの連結自己資本比率



●国際統一基準にかかる自己資本比率8%を大幅に上回る水準を確保しています。